

## 第14回滋賀県地域年金事業運営調整会議 議事要旨

開催日時：令和8年2月16日（月） 午後2時00分から午後4時00分まで

開催場所：日本年金機構 大津年金事務所 会議室

出席者：

- 【委員長】 戸田 典樹（東京通信大学人間福祉学部 教授）  
【委員】 奥野 武浩（全国健康保険協会滋賀支部 企画総務部長）  
瀧川 市朗（一般財団法人滋賀県社会保険協会 常務理事）  
谷口 昌史（大津市健康福祉部 保険年金課 課長）  
松山 延寿（滋賀県社会保険労務士会 会長）  
村上 康彦（滋賀県社会保険委員連合会 会長）

（敬称略：五十音順）

### 【日本年金機構】

- 本部 近畿地域第二部 井上 事業推進役  
大津年金事務所 谷口 所長  
草津年金事務所 服部 所長  
彦根年金事務所 瀧本 所長  
大津年金事務所 佐橋 副所長  
藤波 副所長  
草津年金事務所 岡部 副所長  
彦根年金事務所 可児 副所長  
大津年金事務所 国民年金課 森川  
三宮年金事務所 地域調整課 永松

本日の議事

1. 開会
2. 議事
  - （1）令和7年度事業実施中間報告について
  - （2）令和8年度事業実施方針（案）について
  - （3）意見交換
3. 閉会

戸田委員長

本日は皆様ご苦勞様でございます。一年に一回、こうして顔を合わせることをとても楽しみにしています。年金のこともだんだん変わっていきます。私も社会保障を教えています。現場の大変な状況や、年金制度がどのような位置にあるのか、どういう課題を持っているのかということ、現場の声として聴かせてもらうことはとても勉強になります。基礎年金があって、厚生年金があってなどという一般論は教科書を見ればわかるので、学生はあまり目を輝かせて聞きません。滋賀県は収納率が約 80%で全国よりも少し高く、ここに至るにはいろいろな努力をしています。例えば、絵画展の開催やハローワークと連携した説明会等の開催とか、そういった取組で頑張っていて収納率を上げているというような話や、また、反対に困っている人の例として、大学生のときに障害を負い、無年金障害者になった人がいるというような身近な話をすると、学生たちは興味をもって話を聞きます。こういった忌憚ない話を、恰好悪くてもいいので、現場でどんな努力をしているのか、どんな課題があるかということをお教えいただければありがたいです。また委員の皆さまも、ご自身の立場からどのように年金制度と接しているのかというようなことをお教えいただけると、新たな課題や問題点、取り組まなくてはならないものなどが見えてくるのかなと思います。わずかな時間ですが、頑張っていて議論をしていきましょう。よろしくお祈りします。

## 議事（1）令和 7 年度事業実施中間報告

## 議事（2）令和 8 年度取組方針・事業計画（案）

戸田委員長

事務局説明後、質問・意見を受ける形で進行する旨説明。

事務局（佐橋副所長・岡部副所長・瀧本副所長・森川）

資料により「地域年金展開事業の概要」「令和 7 年度事業実施中間報告」「令和 8 年度取組方針・事業計画（案）」について説明および 20 歳向けオンライン説明会の実施。

瀧川委員

若年層を十分に配慮して積極的に取り組まれている印象。「事業所の従業員に対する年金制度説明会」として、今年度 16 回の実施があるが、これは実施回数か、もしくは 16 事業所に赴いて実施されたのか。

事務局（佐橋副所長）

事業所に赴いた回数ではなく、事業所の方に集まっていたいただいたものを含む実施回数である。

#### 瀧川委員

職域型年金委員の推薦依頼はどのような方法で行っているのか。新規適用事業所も対象としているのか。

#### 事務局（佐橋副所長）

文書による依頼のほか、事業所調査を実施する際にもあわせて推薦依頼を行っている。新規適用事業所については、適用後すぐに勧奨対象とはしていないが、調査対象事業所となった際にはご案内を行う上、一定以上被保険者のいる事業所は必ず勧奨している。

#### 事務局（谷口所長）

現状、職域型年金委員は令和 7 年 3 月末と比較し増加しているが、地域型年金委員は同数である。特に地域型年金委員は高齢化を理由に、任期満了後の更新を辞退されるケースも一定数見られ、委員数の維持が難しい状況。辞退者が出た際に後任を依頼し、委員数を減らさないという点にも意識をおいて取り組んでいる。

#### 奥野委員

年金セミナーについて、受講者のアンケート結果から効果の高さを感じる。年金の入り口である 20 歳を迎える方、迎えた方への制度理解を高めていくことは非常によい取組であるため、地道だが継続して取り組んでいただきたい。

また、ねんきん月間には各事務所で様々な取組をされているが、いずれも参加者へアンケートはとっているのか。

#### 事務局（佐橋副所長）

セミナー開催時は、必ずアンケートに回答いただいている。また、ねんきん月間に開催した 20 歳向けのオンライン説明会でもアンケートを実施しており、説明がよかったといったご意見は職員の励みになっている。

#### 事務局（岡部副所長）

草津年金事務所において実施した「鹿深の家」でのセミナーではアンケートを実施した。こども絵画展についてはアンケートをとっていない。

#### 事務局（可児副所長）

彦根年金事務所においては、ハローワークのシニアガイダンスに参加した。主催がハローワークであるため、アンケートはとっていない。

#### 奥野委員

参加者の声を聞くことで内容が少しでもより良くなれば、参加者が増えるなど、各取組がさらに発展していくのではと思う。無理のない範囲で参加者の声を聞いていただくのもよいかと思う。

#### 谷口委員

先日、本市職員が市町村職員向け研修に参加したが、内容が充実していてわかりやすかったとの感想であった。異動のあった職員が都度受講できるよう、定期的開催されるとありがたい。また、適正な制度運営が各行政機関において大切であると認識しており、そのように図らせていただきたいと考えている。

また、11月に開催された20歳向けのオンライン説明会について、参加者希望者は郵送で申込みをする方式だったようだが、メール等オンラインでの参加申込とされなかった理由はあるのか。若年層にとっては今やオンラインが当たり前であって、参加のしやすさにつながるのではないか。

#### 事務局（服部所長）

当機構は現在インターネット回線を遮断しており、個人情報である参加申込のメール等をインターネット環境下で保持する仕組みが整えられていない状況である。将来的には環境を整備して実現したいところではあるが、現状至っていない。また、オンラインでの説明会等について、現在は当方が指定した日時にURLにアクセスし、セミナーを視聴いただく方法となっているが、いつでもその動画にアクセスできる環境が本来だと思っている。こちらもいずれ整備されていくものと考え、今はこういった事情があることをご承知いただきたい。

#### 村上委員

外国人の増加は企業サイドからも感じているところである。社内で外国人に制度説明をする際にも、特に「なぜ年金を納めないといけないのか？」という点は理解が得られにくい。「知っておきたい年金のはなし」よりもさらに簡単でわかりやすいリーフレットが多言語で用意されていると、理解の一助になるかと思う。

また、外国人同士は横のつながりが強く、コミュニティの中で情報共有しているようだが、正確な情報が共有されているのかという問題も感じる。

#### 事務局（佐橋副所長）

保険料免除制度についてなど、国民年金関係のリーフレットは多言語のものが作成されている。制度そのものについて説明されているものはまだ少ないのが現状である。

#### 事務局（瀧本所長）

彦根年金事務所では、市町村と連携しながら、外国人のコミュニティに我々から飛び込んでいくという取り組みを行っている。具体的には彦根教会のミサや、彦根市が主催している行政にかかる外国人モニター（約30名）の年金についての意見交換の場などに参加させていただいた。それらの取り組みを通じて、「郵便物が届いてもそれが何なのかがわからない」「年金事務所の存在自体を知らない」という外国人が多いことがわかり、当機構としての外国人へのアプローチはまだ第一段階であると痛感している。3月以降も彦根教会、長浜教会のミサに参加予定。さらに外国人との交流を深めてまいりたい。

事務局（谷口所長）

滋賀県内3事務所とも国際交流協会や国際交流センター等への接触を行っている。その中で、団体が発行する機関誌（多言語）に年金について掲載可能であるとのお話をいただいた。本日いただいたご意見を反映させられる部分もあると思うので、団体とも意見交換しながら、周知広報に努めてまいりたい。

松山委員

11月に行われた20歳向けのオンライン説明会は、滋賀県内3事務所に京都南年金事務所を加えて開催されている。こちらはこういった経緯か。

事務局（服部所長）

オンラインの説明会は居住地に関わらず参加いただくことができる。1回の説明会をより多くの地域の方に見ていただければ、費用対効果の向上が期待できる。そのため、昨年度より京都府、福井県、滋賀県での共同開催を検討していたところ、今回は第一歩目として滋賀県内3事務所に京都南年金事務所を加えての開催となった。今後は近畿地域第二部管内一体となって開催するなど、裾野を広げてまいりたい。

松山委員

社労士会は滋賀県下に4支部あり、各地域で活動している。「ねんきん月間」と同時期に我々も無料相談会を実施しているが、事前に話ができればなにか連携した取り組みもできるのではないか。

また、外国人について、大津市の幼稚園には外国人の子どもが多く入園されていて、言葉が通じず、保育士はコミュニケーションに困っている。年金事務所だけでなく、様々な場で外国人対応には苦勞されているようである。

事務局（佐橋副所長）

連携した取り組みについて、例えば無料相談会の場に当機構のオンラインサービスを案内させていただくブースを設けるなど、新たな周知の機会ができればありがたい。

### 議事（3）意見交換

事務局（井上推進役）

外国人対策にかかる年金事務所間の連携として、京都府の例を紹介したい。京都府は外国人の増加が顕著であり、未納解消に注力している。先日、京都市内3事務所合同で外国人が多く在籍する専門学校に赴き、学校の先生に同時通訳いただきながら80名程度の学生へ年金セミナーを行った。セミナー後はその場で納付相談会を行い、持ち込んだ端末で相談者の年金記録を確認しながら、学生納付特例申請書の受付等を行った。私自身もその場で外国人と接したが、友達同士で相談に来られた内、一人ぐらいは日本語がわかったり、

制度を少し知っていたりする。その一人を介して、他の学生にも制度を理解いただけるといった場面もあった。草の根的であるが、こういった例も踏まえて、未納解消に向けどのような取組がよいのか模索してまいりたい。

戸田委員長

学生に対しても、一般論で語るより実際に学生納付特例の申請書を見せて説明をするほうが、他人事ではないと感じてよく勉強する。そういった機会を重ねていくことも大切かと思っている。

事務局（藤波副所長）

年金セミナーを重要なものと考えており、特に 20 歳到達者に向けたセミナーの参加者数を増やしたい。大津年金事務所管内では、ひと月あたり 300 名前後の方が 20 歳を迎えられるのに対して、毎月開催しているセミナーに参加されるのは月当たり 10 名程度である。月 1 回の開催日に都合がつかず参加できない方もいる可能性を考慮し、来月は 8 回に開催回数を増加してみる。あわせて案内文書なども内容の改善を検討してまいりたい。

戸田委員長

URL や QR コードを送付し、そこから YouTube 等に掲載されている動画を見てもらうような方式が主流になってきている。

事務局（永松）

国民年金業務の経験から、外国人対応の難しさは身をもって感じている。機構ホームページなどに多言語版の資料等が掲載されているものの、実際に職員が説明する場面で助けになるかどうかは難しい部分もある。奥野委員より参加者の声を聞きながら取組をよりよくしていくよう意見をいただいたが、外国人に対しても同様に、実際に外国人と接する場面で様々な資料を使用しながら、適した資料を模索、改良し、また改良された資料を共有していくことができればと思う。

戸田委員長

兵庫県も外国人が多い。そういった拠点で作成された資料が他の年金事務所に共有されると、役割分担の観点からも良い。

事務局（服部所長）

滋賀県内 3 事務所では、大津が「王道」な取組、彦根が「外国人、高齢者」に注力した取組をしているのに対して、草津は「ニッチ」であり、今まで例の少なかった「こども絵画展」や児童養護施設での年金セミナーなどに取り組んでいる。3 月にも、ろうあ者向けの年金セミナーを予定。王道の取組も行いつつ、年金の情報が得られにくいところに目を向けていくことも大切だと思い、継続して取り組んでまいりたい。

戸田委員長

草津は福祉施設も多い地域。草津年金事務所でこそ頑張って取り組んでいただきたい。